

0140 | 生物学

2 単位 (通信授業 2 単位)

伊藤恵夫講師

授業の概要と目標

「生物学」は「Biology」の訳語とされることが常であるが、「Biology」の語源「bio: 命」を考えれば、本来なら「生命学」とされるべき内容を扱う学問であろう。それゆえ一般的な「生物学」の教科書等では、DNA に代表されるような肉眼では見ることのできない世界や生命の根源的な化学的内容で占められている。

本授業においては、「生命学」としての「生物学」は扱わない。美術大学という特性をもつ本大学の学生に必要とされる「生物学」とは何か。この問いに対して、「生物のかたちをしっかりと見ること」と答えたい。生物のかたちの観察を通して、「生物の多様性」についての理解を深めるために、本授業では第一歩として、さまざまな姿によって地上・土中・空・海などに適応している哺乳類を対象として観察する。

課題の概要

○通信授業課題 1

哺乳類の任意の二つの目（もく：分類単位）をあげ、それぞれの目の形態的特徴とそれから推測される生活様式を比較しながら論じなさい。学習の際に観察した結果（客観的事実）から、いわゆる原始的な特徴と特殊化した特徴についても考察し、生活様式との関係について自分の意見を述べること。

○通信授業課題 2

生物の多様性について、哺乳類を例に論じなさい。なるべく多くの哺乳類の種類をとりあげるようにして、「かたち」と「生活様式」を中心にまとめること。

* 課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書を使用する。

I 哺乳類

ネコのなかま、アザラシのなかま、ウシのなかま、ウマのなかま、ゾウのなかま、ハイラックスのなかま、ツチブタのなかま、クジラのなかま、カイギュウのなかま、サルのなかま、センザンコウのなかま、ツパいのなかま、モグラのなかま、ヒヨケザルのなかま、ハネジネズミのなかま、コウモリのなかま、ネズミのなかま、ウサギのなかま、アリクイのなかま、フクロネズミのなかま、カモノハシのなかま

II 爬虫類

トカゲのなかま、ヘビのなかま、カメのなかま、ワニのなかま

III ペット・家畜

イヌ、ネコ、ハムスターなど、ウサギなど、ウマ、ウシ、ヒツジ、ヤギ、ブタ

IV アニマル・ウォッチング

野生動物

V 絶滅危機動物

絶滅危機動物リスト

成績評価の方法

◎科目試験

教科書全般から出題する（論文形式）。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：今泉忠明監修『ポケット版 学研の図鑑 3 動物』（学習研究社 2002 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）